

2022.6

福田美術館

報道関係者各位

企画展開催のお知らせ



開館3周年記念 福美の名品展 ～まだまだあります未公開作品～

福田美術館は2022年10月1日に開館3周年を迎えます。本展ではこれを記念して、当館を代表する名品と共に、これまで公開したことがない近代絵画を中心とした秘蔵のコレクションを多数ご紹介いたします。約1800点のコレクションの中から厳選した名品を通して、福田美術館の新たな一面をお楽しみいただければ幸いです。

企画展	開館3周年記念 福美の名品展	日時	2022年7月16日(土)～10月10日(月・祝)
サブタイトル	～まだまだあります未公開作品		○前期/2022.7.16～8.29
作品数	○前期：31点→うち初公開17点		○後期/2022.8.31～10.10
	○後期：35点→うち初公開21点		10:00～17:00 (最終入館16:30)
	○通期：31点→うち初公開21点	主催	福田美術館・京都新聞
	○作品総数：97点 ※版画作品も1点として数えています		※作品点数は変わる可能性があります

<見どころ>

- ・当館初公開の近代～現代の絵画97点を一挙公開
- ・横山大観《富士図》や上村松園の《長夜》《雪女》など、人気の名品が観れる
- ・35年ぶりの公開となる杉山寧の大作《慈悲光》

近代絵画の名品と初公開作品

第1章では、お客さまから「もう一度観たい」というお声を多数いただいている横山大観や下村観山、上村松園などの選りすぐりの名品とともに、これまでご紹介する機会が少なかった現代日本画をご紹介致します。

昭和時代以降、日本画というジャンルに新たな境地を切り開いた高山辰雄、杉山寧、秋野不矩らの名品の多くが当館では初公開となり、中でも35年ぶりの公開となる杉山寧の大作《慈悲光》は、そのスケールと厳肅な雰囲気

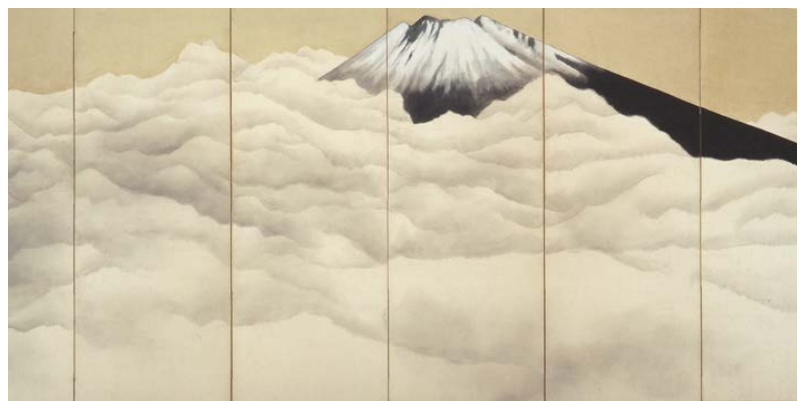
に圧倒されることでしょう。



上村松園《長夜》（前期展示）



東山魁夷《静けき朝》（通期展示）



横山大観《富士図》（通期展示）



秋野不矩《瓶花》
（前期展示）



下村観山《枯木鳥》
（後期展示）



杉山寧《慈悲光》（通期展示）

新しい表現を求めて

第2章では、進化し続ける日本画の創造の場を求めて「国画創作協会」を設立した村上華岳や入江波光、小野竹喬らをはじめ、今年で没後50年を迎える美人画の名手、鏑木清方や伊東深水の作品を展示。

それぞれに追求した「美」は、いつの時代も感じられるものでありながら、その描き方は伝統にとらわれず新たな表現を模索しています。



村上華岳《雲中散華》(通期展示)



鏑木清方《宇治の螢かり》(後期展示)



小野竹喬《遅日》
(前期展示)



入江波光《臨海の村》(通期展示)

そのほか、大正12年に刊行された近松門左衛門の作品集『大近松全集』の付録に付けられた上村松園、富田溪仙らの版画13点とその原画5点も展示いたします。



西村五雲《朝比奈》(通期展示)



富田溪仙《文覚上人》(通期展示)



上村松園《雪女》(通期展示)

又造の部屋

加山又造は、当館のすぐ近くに位置する天龍寺の龍を揮毫したことで知られます。戦後の昭和50年代、彼は斬新な動物画シリーズを展開し、敗戦で気運の下がっていた美術業界に一光をもたらすと、その後も江戸琳派風に傾倒した60年代、裸婦に取り組む70年代、水墨画へ転向した80年代と、10年刻みで画風を変遷させていきました。パノラマギャラリーでは第三章として、加山又造の作品をご紹介します。



加山又造《白い鳥》（通期展示）



加山又造《月光山陵》（通期展示）



加山又造《飛翔》（通期展示）



加山又造《雪》（通期展示）

休館
料金

毎週火曜日

< 福田美術館 >

一般・大学生 ¥1,300(1,200)/高校生 ¥700(600)/小中学/¥400(300)

障がい者と介添人1名まで 各¥700(600)

※ () は団体料金

< 嵯峨嵐山文華館との二館共通券 >

一般・大学生 ¥2,000/高校生 ¥1,000/小中学生 ¥550

障がい者と介添人1名まで 各¥1,000

※期間中一部展示変えあり

担当学芸員：阿部亜紀
広報：中島真帆

開館3周年記念 福美の名品展 プレス用画像一覧_1



01



02



03



04



05



06

01

横山大観《富士図》（左隻）
（通期展示）

02

上村松園《花のさかづき》
（後期展示）

03

下村観山《降魔図》（後期展示）

04

杉山寧《慈悲光》（通期展示）

05

上村松園《長夜》（前期展示）

06

秋野不矩《瓶花》（前期展示）

開館3周年記念 福美の名品展 プレス用画像一覧_2



07



08



09



10



11



14



15



12



13

07
東山魁夷《静けき朝》
(通期展示)

08
加山又造《猫卜牡丹》
(通期展示)

09
入江波光《臨海の村》
(通期展示)

10
加山又造《白い鳥》
(通期展示)

11
上村松園《雪女》(通期展示)

12
村上華岳《雲中散華》
(通期展示)

13
小野竹喬《遅日》(前期展示)

14
西村五雲《朝比奈》(通期展示)

15
入江波光《青梅に仔雀》
(後期展示)

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。



福田美術館概要

- 名称：福田美術館／Fukuda Art Museum
- 運営主体：一般財団法人福田美術振興財団
- 住所：〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
- 電話番号：075-863-0606 (FAX) 075-863-0607
- メールアドレス：info@fukuda-art-museum.jp
- ホームページ：<https://fukuda-art-museum.jp>



- 敷地面積：1982㎡
- 延床面積：1193.58㎡
 - ・展示室1／151.2㎡
 - ・展示室2／175.4㎡
 - ・展示室3／64.5㎡
- 交通アクセス：
 - ・JR山陰本線「嵯峨嵐山」駅下車、徒歩12分
 - ・阪急嵐山線「嵐山」駅下車、徒歩11分
 - ・嵐電（京福電鉄）「嵐山」駅下車、徒歩4分



本展に関するお問い合わせ

福田美術館・嵯峨嵐山文華館 広報事務局（ウインダム内）

TEL 03-6661-9448 FAX 03-3664-3833

Email 福田美術館：fukudamuseum@windam.co.jp

嵯峨嵐山文華館：samac@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F

「福田美術館」広報事務局

担当：沼澤、多田